



昨年世界を驚かせた出来事としてかなり言い尽くされてきたことだが、イギリスのEU離脱を決定した国民投票とアメリカの大統領選におけるトランプ候補の勝利が挙げられる。

どちらも事前の

マスコミ予想をひ

っくり返しての結

果で、しかも両国

の国論を二分する

僅少差であった。

実際の得票数が負

けた候補の方が200万以上多い

という奇妙な結果にアメリカ国民

は真つ二つにされてしまったよう

だ。先般トランプ大統領が誕生し

期待に反して？公約通りの動きを

見せ、世界中が成り行きを注視し

ているのが実態だ。

世界の史観から 視点



草野 義輔

駆け産業革命を成し遂げたイギリスの時代だった。20世紀に入ると2度の大戦を経てアメリカが世界の主導権を握った。そんな世界史の流れの中で長く世界の中枢にいたアメリカがトランプ政権の下で歴代の動きとは異なる対応、すなわちアメリカファーストという歴史的には「らしくない」政策を打ち出し始めたように見える。このことは

世界が従来のアメリカの懐の大きさに甘えて成り立っていた世界秩序の終焉と見ることもできる。

イギリスの離脱も国論を二分し日本企業にも大きな影響が出るかもしれない。22世紀があるとして(ないとまずいが)22世紀の私たちは21世紀をどんな時代と振り返るだろうか。世界史の大転換かも。

振り返ると、19世紀は世界に先

(昭和学園高校理事長・日田市)